

ライブハウスを熱くする
デビューNOW

5/20
号



NIGHT SPOT in TOKYO

ライブハウスを遊泳せよ!

新宿特集

新宿周辺で活動する
10組のアーティストを直撃!!

Pick up artist
Quesera Spunky Roars

A,B,B,B,
B.B.P
Meine Meinung
Zombie Eat Panda
JUNKEN STEIN
AB-one B
MOODY★RUDY
谷修
コスモス

これが空前絶後のロックンロール
見に来い!!
ウネる、踊る、叫ぶ



Vo&Harp・フジイマサクニ
G・ツルガヤスナオ
B・コントウユウジDr・オカノタケル

「とにかくカッコいいロックンロール」。

それがケセラのサウンドであり、ライブパフォーマンスであり、音楽を続ける限り追い求めるものであり…メンバ全員の生き様である。

Quesera Spunkey Roarsの結成は2004年11月。12月に“一発録り”デモ音源をリリースし、2005年5月、1stマキシシングル「アカイロ」をリリース。現在都内を中心に精力的に活動を続け、この3月には関西3daysツアーを盛況のうちにこなし、活動の舞台を全国へ拡大しつつある…と、そんな軌跡の始まりは、奇跡の出会いからだった。

バンドのメンバー探しには苦労がつきものだというが、ケセラの4人は、それを骨身に染みて感じている。4人はインターネットのサイトで出会った。あまたの知り合い関係、それぞれやってきた過去のバンドのメンバー、そのどちらでも目指すことができなかった場所を手に入れるために一切の妥協を排除する。言うのは簡単だが、実現するのがどれだけ難しいことか。早く演奏したい。一緒に演奏できるメンバーに巡り会いたい。けれど巡り会えずに時間が過ぎていく。それぞれが「その時」を待ち焦がれていた。

最後に出会ったドラムのオカノが、他のメンバーの誘いに応えてOKの返事をした翌日、自分がツルガヤに送ったメールを、フジイは今でも時折見返すことがある。「あれって夢じゃないよな」。一緒にできるんだよな。「まるで片想いが成就したかのように、もう怖いものは何もない」と感じた。やっと思いつ切って突っ走ると。

「自分たちが最高と思うものをやっている」。自信をもってそう語るのは、以後もそれぞれが妥協なく、自分自身を全開に音楽しているから。自分が見たいと思うライブをやり、自分が欲しいと思うCDを作る。そのため、スタジオでは激しい火花の散らし合いになることもめずらしくない。その中から、深く激しく心を揺さぶるような、否が応にもその世界に引きずり込まれるようなケセラのサウンドが紡ぎ出される。

大切なを滲ませるかすれ気味のヴォイス、正確さと熱さと情感を兼ね備えた演奏…物語を感じさせる歌詞と、ストレートにロックンロールしている曲に、これ以上なくハマると感じさせるのは、そのすべてを「最高のものとするために」彼ら自身が感じながら、考えながら作っているからだろう。

心をいきなり驚づかみにされるようなライブ。その詳細については語ることではないと思う。ぜひ実際に感じてほしい。「俺たちは、いつ売てもおかしくない」。そんな自信にあふれた言葉が、確かな裏付けと覚悟の上に発せられたものだということを。

information

2ndマキシシングル「Beatrice」近日発売予定。詳細はホームページで。

<http://happy-sunny.com/quesera>

Pick up artist

Pick up artistに登場するのは、メジャーデビューをめざして、日々アルバイトなどしながら活動を続けているアーティストです。ぜひ彼らのライブパフォーマンスを見てやってください。

A,B,B,B,



音楽に出会えたことを感謝しながら

Vo&G・HINO/Vo&G・NI-DA
B・HIRAYAMA/Dr・TAKAHASHI

ロックとフレンチポップの融合。それがA,B,B,B,のサウンドの特徴だろう。とはいっても、曲を作る時にそれを特に意識することはない。「いいメロディが浮かんできたら、そこから自然と音が紡がれていく。そんなふうに自然にできた曲がいい曲」だからだ。さらに、それぞれの曲は常に進化し続ける。「ライブでアドリブをやる。それをあとで見直して、いいじゃんと思ったら、普段もそれを取り入れていく」。伝えたい

ことを伝える手段として、音楽という手段を手に入れられたことがうれしいという彼ら。「言葉だけじゃなく、音だけじゃない。その両方で、より多くの人に、より深い部分で語りかけられるのが自分たちのバンド」。そんな喜び、気持ちよさをライブで思う存分表現していく。

information

4/30 八王子・クラブハバナ
6月名古屋ツアー

<http://ip.tosp.co.jp/i.asp?I=ARBACK>

B.B.P



個性も勢いも止まることなく進化し続ける

Vo&G・ポッター/Vo&B・ボス/Vo&Dr・ナオキ

独特なライブパフォーマンスと個性的なサウンドを繰り広げるスリーピースバンド。「演奏しているときは何もかも忘れて気持ちいい」というライブは、自由な感じで毎回新しい試みを取り入れ、ファンの期待に応えながら、いい意味で裏切ることも。「バンドを続けている中で、時にはスランプに陥ることもある。でも、街で流れている曲などを聴くと、またすぐ演奏したくなる」。当初はオルタナ、ファンク、メタル他を組み合わせたバンドだったが、次第に3人3様の音楽を追究するようになり、どことなく

ヘビーな音でありながら、シンプルなロックとして仕上がる曲が多くなってきた。「自分はダメな人間かも知れないけれど、でも何かできるんだ」。もがきやあきらめの悪さを含めて、そんな前向きな気持ちを伝えしていく。ライブ活動、曲作りともにますます精力的に進化していく彼らに注目したい。

information

4/23 渋谷・クロール
4/30 府中・フライト
5/14 稲毛・K'sドリーム
5/21 新宿・Live Freak

<http://www.bbp-web.com/>

Meine Meinung



そのひととき、別世界へと誘いたい

Vo・Eriko/G&Violin・Hiro/G&Gsyn・Kenta
B・Makoto/Dr&Per・Takahito

「ふと情景が浮かぶような、ステージが始まってから終わるまでの間、どこか別の世界にいるような感覚を感じてもらいたい」。そんなサウンドを作り上げ、それぐらいに聴く側を引き込むことが目標というマイマイ。その言葉通り、浮遊感を感じさせる柔らかなクリーントーンサウンド、クリスタルヴォイスは、思わず引き込まれる魅力をもつている。ストリートライブやイベントも精力的にこなす中で「小さな子どもが踊り出したり、何気なく足を止めた人が聞き入って

くれる時、その一瞬であっても深い結びつきを感じられた」。それぞれの曲がエレキバージョンとアコースティックバージョンをもち、その場や雰囲気に応じて演奏できるというのもユニーク。来た人たちが自然と仲良くなってしまうというライブで、バンド名である彼らの「自己主張」を浴びてみよう。

information

2ndアルバム近日発売予定。コミュニティ放送、インターネットラジオなどにレギュラーオー出演。詳細はホームページで。

<http://meimei-music.com>

Pick up artist

Zombie Eat Panda



カッコいいと思うこと、
やりたいことを自由にやる

Vo&G・菊地展弘/G・杉崎真道
B・後藤遼/Dr・中辻智幸

伝えたいことはもちろんある。けれど最初にそれありきでなく「感じるままにやっていく中で、後からそれがついてくる。聞く側がそれに感じてくれればいい」。だから彼らのライブは即興的でフリーな部分が多い。何度も足を運ぶファンも、そのたびに何が起こるかワクワクさせられるという。変拍子の曲に乗って暴れまくる激しいライブパフォーマンス、パンダの登場…ライブの場の盛り上がりはもちろん、その

<http://zep-net.com/>

基本となる曲の完成度も極めて高い。自ら「変態サウンド」と呼ぶギターとベースのエフェクティブなサウンドと透明感あるボーカルが、変拍子多用の特徴的な曲に絶妙にマッチし、グループ感あふれる印象的な仕上がりに。CDとライブ、それぞれが確立したものとして別の楽しみ方ができるパワーをもったバンドだ。

information

7/8 新宿・Live Freak

常に100%の総合格闘技のように

Vo&G・TUNE/Vo&B・SHiNTA
Vo&Dr・DIE

「自分の内面、生き様が素直に出る曲を作り、演奏する。さらけ出ことへの抵抗と欲求。その両方を感じながら、まんまでやりたいと思う」。一言でいうならポップなロックンロールなのかもしれない。けれど骨太な音の中に、そういうジャンル付けには収まりきらない勢いと想いを感じさせる。「バンドが世界で一番カッコいい」と言いつける彼ら。それと同時に自分の生活の中に

自然にあるものもあるという。「食事といつしょ。料理して食べる、曲を作って演奏する」。そんなカッコよくて自然なことの結果として、ライブで聴く側との一体感を感じられたとき、その相乗効果でもつといい演奏ができたときが「本当に最高」。元気ややる気をシェアできるポジティブな曲を、これからも発信していく。

<http://www.junkenstein.com>

JUNKEN STEIN



全員が4番バッターとしてがむしゃらに

Vo&G・宮地太郎/G・池原谷恭平
B・渋田洋平/Dr・福士はじめ

「独自の嘆きロックというスタイルで、みんなの心に様々な感情を刻み続ける」。それがAB-one Bのスタイルだ。感動・喜び・勇気・悲しみ・愛しさ・悔しさ…身の周りに起きたこと、ニュースを見て感じたこと、メンバーそれぞれに嘆きのタネは尽きない。「その中から本当に伝えたいことを書いていく」というだけに、その詞はどれもストレート。ただしひ

ではない。それは、聴く側のために、どう料理すればより伝わるかを常に意識しているから。「頑張っている人を勇気づけられたら最高にうれしい」。ロックでポップな心地よいメロディーライン、柔らかで伸びやかなヴォイス、ボーカルを引き立たせる的確な演奏。それらが最高の形でマッチし、心に染みこんで搖さぶる様を、ぜひライブで。

AB-one B



<http://music.geocities.jp/aboneb/index.html> (mobil版)

Pick up artist

MOODY★RUDY



ライブを見てもらえれば一発でわかるはず

Tb&Vo・エリオ/A-sax,Vo-FUKU/T-sax・タカシキサックス
B-sax・Mock★Rock/Tp・モリション/G・ボンド/B・そんは/Key・カワちゃん

ネオスカをやりたい人間が2つのバンドから集まって作られたMOODY★RUDY。このバンドの最大の特徴は日韓合同ということ。メンバーに2人の在日韓国人がいるため、歌詞に韓国語を取り入れたり、韓国の民謡を演奏したりと個性豊かな幅広い音楽で、聴く側はもちろん演奏する側も楽しめることが魅力だ。「自分の感じたもの、その気持ちを他の人に伝えたい。押しつけじゃなく共感してもらえたらしい」。なによりもメンバーが楽しんでいるから「理屈抜

きで楽しんでもらえることが一番。ライブに遊びに来てくれた人が、また仕事頑張ろうとか思ってくれたらうれしい」。9人がめぐりあえた幸せを感じながら、次々に目標をクリアしつつ活動範囲を広げていく。

information

4/29 渋谷・デセオ
6/7 1stアルバム「くるむのり」リリース予定。その後アルバム発売記念東名阪ツアーや敢行。

<http://moody-rudy.com>

谷修



何気ない日常を心に刻みたい

蛇口をひねる。電気をつける。そんな日々当たり前にしていてこと、意識せずにしていることを形に残していく。だから僕は歌を作り歌っているんです。流れいく日々の中で、思い出せることがどれだけあるか。「それを意識するだけで、自分の世界がもっと広がるはず。それを伝える手段が音楽だったということ」。抜けるような高音域の声で会場を包み込むような弾き語り。一度聴いただけで身体に入ってくるような優しいメロディが、彼の歌の

最大の魅力だろう。曲を作り始める前には、もう曲なんて作れないと思ふ。それでも不思議と、心の中から歌が生まれてくる。「CDを繰り返し聴いてくれた人がライブに来て、ライブのほうがもっといいと言ってくれる。それが僕の原動力であり、そう言われ続けるために頑張っていきます」

information

4/22 四谷・天窓ワンマンライブ
5/13 渋谷・多作
5/27 四谷・天窓

<http://www.tanisyu.com>

コスモス



2人でしかできないことをやり続けたい

Vo・石川啓太/G・葭原卓也

「音楽っていうのは楽しんだ。音楽をやる人ならみんな知っていることだけど、それをもっとたくさんの人に伝えたい」。専門学校で出会い、友達に聴かせるためにバンドを組んだという自然体の2人。その気負いのなさと同時に、音楽を愛する熱い気持ちが言葉の端々に透る。知らない人がライブを見に来てくれる。その人が周りの人を誘って、もっとたくさんの人がきてくれる。「それがすごい感動で、だんだん伝えることを意識はじめました」。その結果にひとつは「めざまし土曜日」の主題歌を

決める『めざましコンペ』で1777曲中9曲に選ばれるという形で表れた。現在、精力的にストリートライブを行うふたり。「応援してくれるのために、いつでも聴けるグループになりたい」。今はそんな気持ちで活動を続けている。

information

6/3 新大久保・Club Voice
7/7 新大久保・Club Voice
毎週土曜日15時頃から井の頭公園でストリートライブ

<http://www.geocities.jp/cosmosnomusic> (PC版)

<http://www.juicestyle.jp/hp/cosmosworld> (mobil版)